

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300573		
法人名	医療法人社団 明星会		
事業所名	グループホーム明星		
所在地	加茂郡富加町夕田373番地		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町村受理日	平成26年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2171300573-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓越しに移り変わる四季折々の木立や、春つけるふきのとう、鶯の鳴き声、夏にはせみの声が響き渡るなど、自然いっぱいに囲まれた環境の中での生活はゆったり感の良さがある。一人一人の出逢いがあり、別れもあるが笑顔で暮せる仲間が互いに支えあい、寄り添いながら一日一日を過ごす事が出来ている。利用者様を中心に家族、職員、そして地域の皆さんとのつながりを今まで以上に大事にしている。又開設以来ホーム特有の保存食作りは今も続行できており、健康保持にも役立ち自慢できるものである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時、スタッフで作上げた理念「その人らしさ・安心と喜び・優しさ、温もり・地域と家族の結びつきを大切に」を、そのままに実践し、地域に密着した質の高い生活を支援している。地域の人々やボランティアと、日々親しく関わり、身近で馴染みのつながりを築いている。利用者の知恵を借りながら、「干しなす」等の保存食づくりや、旬の野菜を使った食事づくりを一緒に取り組み、豊かな食生活と健康維持に役立っている。歩行困難な人へは、車椅子に頼らず、手引きをし、入浴もシャワーより複数介助で浴槽へと導き、喜びを共感し、笑顔で暮らせるサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職務の中、生活の中へ理念を自然に取り入れられる体制になってきた事に誇りと自信を持ち、さらにより深く実践に繋げるように常に努力をしている	「地域、家族との結びつきを大切に、安心、温もり、その人らしさを大切にする」という明解な理念である。理念を目線に掲示して、唱和、共有し、地域に密着した、その人らしい暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で馴染みの方と出会ったり、役所関係の方との交流が多くみられるようになり、この地での一人として又ホームが地域に溶け込んできた事を実感している	自治会の一員として、賛助費の応分を負担し、地域住民を事業所の行事に招待している。長年交流のある数グループのボランティアとは、周辺の清掃や外出支援など、親密な付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	私達の力で支える事ができるなら役に立ちたい。認知症の人の理解、どのように向き合ったら良いか相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーの方々より幅広く意見を頂き良い意見交換ができています。それぞれの立場から意見や好評を頂サービス向上に役立っています。	会議は、行政、地域関係者、家族、利用者等が参加し、隔月に開催をしています。避難訓練の際、出口が狭かったことや、脱水対策等について意見を交換し、改善や運営に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の方とは常に連絡をとっている。その人の情報等不明な点は明確に伝わり協力的である事が嬉しい	事業所からの案内や通知は、行政の窓口へ、直接手渡している。地域包括支援センター職員が、紹介利用者の経過観察に度々訪れている。運営上の不明な点は、その都度連絡し、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。一部転倒防止の為に座っている椅子の前にテーブルを置いているが、ご家族の了解を得て行っている。玄関には施錠をしない。	身体拘束について、全員で理解し、拘束をしないケアを実践している。やむを得ず、ベッド柵やセンサーマットを敷く場合は、家族の了承を得ている。見守り、同行等の支援により、玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で話し合い徹底している。常にこれで良いのか反省しながら防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修の成果は発揮できていない。制度の理解は出来ているが必要とされる利用者様は居ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全て契約に関することは事前に十分説明し理解、納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の気持ち・要望はホームの改善に繋がるものである為大切に、面会時等で意見を聞いたり、又ケアプラン会議、家族会等でも表せる機会を設け運営に反映させている。	家族会や訪問時にゆっくりと話を聴いている。体重管理、骨折予防等への要望があり、介護計画に反映させている。歩行が困難で、夜間が心配との意見があり、センサーマットを設置して対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従事されている職員さんが働きやすい職場作りに勤めている。明るいムード、チームワークの良さ、その為には一人一人の意見を聞きながら対処している。	ミーティングや申し送りの中で、職員から意見や提案の確認をしている。夜間の安全対策や排泄用品の選択、行事計画への提案等、職員の声は、その都度、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働ける職場環境を作るように努力している。皆さんが同じ気持ちで向上心を持ち努力されている事に感謝している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、外部研修、その伝達講習を受けている。仲間意識を大切に協力し合い各自がやりがいを持っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との合同研修は1回ではあったが持つ事ができた。サービス向上をしてゆく上で同業者との勉強会は必要であると考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ごく自然な形でご本人と向き合って信頼関係を築く。ご本人に不安を感じさせないように安心、安全に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭で困り果てた事を経験されていてもいざグループホーム入居となると誰もが心配される。常に家族の意見を聞きながら安心されるように対処している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関から情報をもらい、今後の暮らしについて何を求めているのか相談する事により適切な支援をする事が出来る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で支えあいながら、出来る事でも分担しながら行うという良い関係が出来ている。特に相手を思いやるというすばらしいところがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	三見一体となり支え合っている。本人と家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ行く。月に一度のお墓参り、お寺や家へお参りに行く、又ドライブの途中に馴染の場所へ行くなど今までの関係が途絶えないように支援している。	友人、知人の訪問時は、歓談できる場を提供し、次回につなげるよう支援をしている。併設施設の利用者、かかりつけ医、美容師、ボランティアたちとも、馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性、生活歴を知る事で良い支援ができています。皆さんがそれぞれ立派である事を分かってもらい、支えあいたわりあえるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても今までの関係を大切にしている。お見舞い・訪問・電話での様子伺い・最期のお見送り等少しの支えにでもなるなら相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさの暮らしぶりを個々の生活の中で把握する。意思表示のうまく出来ない方でも共に生活し寄り添う事で思いが見えてくる。何気ない言葉にも思いが表れている事を理解する。	日常生活の中で、利用者同士の会話や行動から、思いや意向を把握している。意思表示の困難な人は、何気ない言動から思いを汲み取り、寄り添いながら、その人らしい暮らしを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を理解した上で、今までの馴染みの暮らしができるようにその人にあつた支援が行えるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の一人ひとりの心身状態によりそれぞれ一日の過ごし方は違う事を把握している。できるだけ有する能力が発揮できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、ケアプラン会議にご家族に参加していただきケアのあり方について意見を出し合い、見直しを行う事により本人がより良い生活を送れるように介護計画を作成している。	サービス担当者会議やケアプラン会議に、家族も参加して意見を述べている。定期的な見直しと、状態の変化や、本人・家族の要望に合わせた、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子や気づきを個別記録し、職員間で情報を共有し、意見交換を行いながら介護計画の見直し、実践へと繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化とまでは言えないが、その時に家族、本人が必要とされる事は、柔軟な対応にて支援を行っている。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を十分活用している。幸い小さな町でも周りには沢山の社会資源がある。一人ひとりが感じ取れる四季折々を楽しみながら暮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にかかりつけ医との関係が切れにないように支援している。受診は基本的に家族がおこなっているが暮らしをともにする職員として医師の説明を聞くために同行する事もある。	それぞれが、かかりつけ医との関係を継続している。協力医による週に1回の往診と、希望者は、かかりつけ医が往診をしている。医療情報は互いに共有し、連携しながら、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である老人保健施設・診療所の医師、看護師に相談、適切な助言を頂く事により、利用者様の体調管理に早めに対応できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、重症でなければ家族の意向を伺い早期に退院が可能であるように医療関係者と情報交換に努めている。今までの主治医に戻る事により本人・家族も安心される。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	誰もが迎える終末期については入居時に家族と十分話し合い説明する。最期までの看取りは行ってはいないが、できるだけ最期に近いところまで、出来るところまで精一杯やる誠意は関係者に認めていただいている。	重度化・終末期の方針は「食べ物や水分摂取が困難になるまで」とし、生活が可能な限界まで、心をこめて支援をしている。したがって、最期の看取りは行わないことを基本としている。	家族や関係者で共有できる「重度化や終末期」の指針づくりを検討している。家族や関係者に説明できるような、明文化に期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行っていないが、救命救急法(AEDの取り扱い方等)の勉強会に出席したり、急変・事故発生に対応した職員よりの申し送りなどにより実践力を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回(9日)のホーム独自の訓練実施 年一回地域の方を交えての避難訓練実施 年2回母体老人保健施設と共に避難訓練実施 JAさんとは協力体制が出来ている	月に1回の自主訓練と、さらに年2回は、法人合同での災害訓練を実施している。夜勤者一人でどこまでできるか、設備機器類の取扱い等を訓練している。運営推進会議と併せ、避難誘導訓練を行っている。	地域協力者の役割りや想定外対応等、各種災害マニュアルを整備し、防災意識の更なる継続に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重しプライドを傷つけない言葉掛けを行う事を徹底実践している。素敵な笑顔をいつまでも一人ひとりの存在は大きいものと感じて行動を共にしている	一人ひとりの生活歴を理解し、受容の心で接している。「否定をしない・プライドを損ねない」等、人格を尊重した言葉かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定に時間がかかる方への働きかけは時間をかけて気分を変えたり、職員が代わったりし、自分の思いが言えた時は一緒に喜んで上げるようにしている。それが又職員の喜びへと繋がっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさの暮らしを重視し、一日を楽しく過ごしていただけるように支援している。天気・体調の良い日には職員側から提案し外出・散歩・モーニング等の希望を取ることもある。皆が一同に出かけられる事も楽しいものである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日鏡に向かって髪をとく事 田舎の生活では口紅さえつけたことが無い方が多いが、マニキュウ、紅等でほんのりとおしゃれを楽しんでいただけるように支援している。又馴染みの美容院にてカット・パーマ・毛染めなどでおしゃれを楽しまれている方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は下準備から調理の流れの中一緒にされる方が増えている。話題も豊富により好みに合わせ楽しくいただけている。外食・松華堂弁当よりホームでの手作りの方が完食される。片付けの役割もでき皆が関わる食事作りである。	利用者は、包丁を巧みに使い、里芋の皮むきをしている。茄子・大根・里芋の茎を干して、保存食づくりにも関わっている。上品な器に盛り付け、職員も一緒に、楽しい食事を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算を試みた経験を活かし把握できている。摂取量の少ない方には栄養補助食品を用いる等栄養バランスには気をつけている。水分補給には個人差はあるがしっかりとできており安心である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアが習慣づき清潔保持が出来ている。一人ひとりの状態に合わせて全介助・介助・声掛け見守り等により支援を行っている。		

岐阜県 グループホーム明星

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し誘導する事により失禁を無くす支援を続行している。紙パンツ使用は冬に、夏は布パンツ使用しムレを無くすなど季節に応じた対応も行う。オムツ使用者はいない。	早めのトイレ誘導で、排泄に向けた自立を支援している。夜間も、パターンに応じて声をかけ、布パンツ、パッド、リハビリパンツを適切に使い分け、費用の削減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居時に便秘薬使用者が多いが、食事、適度な活動、水分補給(自家製お茶)により自力排便が出来るよう支援し、改善されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員の希望や時間に合わせることは出来ないが、湯の温度・長湯の方等の好みを合わせて入浴している。バラの花を浮かべてお湯、ゆず湯などで入浴を楽しむ事もある。	隔日の入浴が基本である。希望者は、毎日の入浴も受け入れ、好みの温度でゆったりと時間をかけている。重度者も、二人介助で浴槽へ入り「いい湯だなー」と喜びの声が上がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠りにつけるように声掛け、その人に合わせた適度な照明・寝具等に気を使い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬については皆理解している。変更の確認は申し送り・記録により 症状の変化の確認は複数にて行い早急に家族・医師に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って楽しく過ごしている方・リーダーシップをとりたいがまだ入って間もないから・・・というような方等 昔の良い所の話、色々な地域での行事・それにまつわる思い出等良き気分転換の支えになっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	この土地では日常的な外出は無理であるが、地域ボランティアさんやご家族の協力を得てイベント・公園・ドライブ・外食等にかけている。又希望に沿ってご家族と毎月墓参り～外食・家でのお参り(御嶽山)等に行かれる方もある。	広いテラスで、外気浴やバーベキューなどの屋外行事を盛んに行っている。ボランティアや家族の協力を得て、地域のイベント、買物や外食、行楽等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を使われる方はいない(商店も遠い)お小遣いとして預かるが(美容院・外食代)事務所で管理、毎月用途をお便りと共に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば自由に電話を掛けている。希望により年賀状・暑中見舞いの葉書きを書かれる方はいる。(一緒に葉書きを郵便局に買いに行き)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	、共同空間には見慣れないものを置かない。リビングは広い窓より木々・果物(柿、栗)・花(桜)・鳥のさえずり・時には野うさぎ等見ることでより季節を感じる事ができ居心地良く落ちついた場所となっている。又テラスより池の鯉や野鳥を眺めるのが日課となっている。	居間の出窓に、蟹サボテンが見事な花をつけている。ちり紙を利用した、共同作品や習字等を飾り、明るい生活空間となっている。脱衣室や浴室には、大きな滑り止めマットを敷き、安全に配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下中央に見え隠れする場所があるが利用される方はあまりなく、最近では玄関入り口にあるソファで和気藹々と過ごされる事が多くなった。皆の顔が見え・聞こえ・少し間をとった所でくつろぐ・そして誰かがそとと来てくれるそんな気配を感じています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室にはその人らしさを感じる家具が整っている。(遺影・家族写真・ソファ・花など)又家族が本人の好みを知った上で好みの物、馴染みの物を持ち込まれている。	居室の壁には、曾孫の写真や本人の踊りの写真、表彰状等を掲示している。伴侶の遺影には、菊の花を飾り、面会者用の椅子を置き、自分の家のように、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全に暮していただきたい事は何よりの願いである。夜間失敗・転倒する事無く自由にトイレにいけるよう足元にセンサーマットを置く事で安全に過ごせるように試みている。		